

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立豊中支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	1 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 2 近隣施設・地域住民の方々からのアンケート調査における満足度の向上
計画名	豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT (PTA との協働で創り出す、防災時にも役立つ教育環境整備)

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 児童生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた支援を充実させるための、教員の専門性及び授業力の向上</p> <p>(4) 学校生活全般において、合理的配慮の視点に基づき ICT やユニバーサルデザインを活用し、児童生徒に有効な支援の工夫に努める。</p> <p>3 児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される安全で安心な学校づくりの推進</p> <p>(2) 防災・防犯計画及び大規模災害時における対応マニュアルの点検・見直しや必要物品の充実等、地域やPTA と協働して防災体制の確立を図る。 令和元年度学校経営推進費事業「豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT (PTA との協働で創り出す、災害時にも役立つ教育環境整備)」2年次の取組みを実施する。</p>	
事業目標	<p>災害発生時に備えて、防災、減災グッズを授業に活用し日常化することで、自らの命を守り抜く「自助」のための「主体的に行動する態度」を育成し、保護者との「共助」で非常時も安全で安心な学びの場を創造する。</p> <p>① ミライスピーカー（音のバリアフリースピーカー）の使用で、今までのスピーカーではできなかった児童生徒の聞こえの難しさを軽減し、主体的に授業や行事、非常時の心の安定を図れるよう環境整備を進める。</p> <p>② 日常の授業や、PTA 活動で発電機、ポータブル電源、各種テント、超短焦点プロジェクターなどを活用し、非常時に必要となる物品を普段使いできる学習環境の整備を構築する。</p> <p>③ マッスルスーツを高等部の授業に取り入れ、生徒と教員が共助して活動できる経験を重ねる。</p> <p>④ 簡易テントでパーソナルスペースを設定し、日常的に心の安定を保てる体験を重ねる。</p> <p>⑤ サマーイベント、PTA バザー、引渡し訓練において、地域、事業所も巻き込んだ防災啓発・防災グッズ体験をはじめシミュレーション訓練を実施する。</p> <p>⑥ PTA と協働し、校内に「安心ゾーン」を設定し、減災につながる環境整備を始動する。</p> <p>⑦ 府下知的障がい児支援学校における防災実践の実践例として、研究紀要や学校ブログを通じて情報発信する。</p>	
整備した 設備・物品	<p>●消耗需用費</p> <p>LACITIA ポータブル電源 エナーボックス (2)</p> <p>SONY ワイヤレススピーカー SRS-XB21 (12)</p> <p>山善エアベッド PAH-001FP (6)</p> <p>CAPTAIN STAG ワンポールテント (4)</p>	<p>サンワサプライ bluetooth レシーバー(4)</p> <p>Sandony bluetooth ワイヤレスマイク (6)</p> <p>鍵付き管理ロッカー (1)</p> <p>ヨガマット 10mm (5)</p>

	<p>CAPTAIN STAG ポップアップシェルター(4) ニトムズ 窓ガラス飛散防止シート (30) ルミキャップ 蛍光灯カバー (68) DAYTONA ガソリン携行缶 (1) Panasonic ポータブルワイヤレス送信機 (1) SENA SPH10 インカムヘッドセット (4)</p>	<p>●備品購入費 SoundFun! ミラリスピーカーMOBY セット (4) マッスルスーツ Edge (1) Honda 発電機 EU26i (1) SONY XperiaTouch G1109 (2)</p>
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主 担：安全安心 HOT ホット PT (首席2名・指導教諭・教諭5名)、PTA 保健・防災委員会 実践者：授業プランナー、各行事チーフを中心とした全校教職員</p>	
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>◎各授業、行事への防災グッズの活用</p> <p>小学部： 備蓄品体験 (ポータブル電源、エアベッド、簡易テント) 高等部：備蓄倉庫見学 (発電機、アシストスーツ等)</p> <p>全学部： 式典行事 (入学お祝いの会、卒業式) や避難訓練、各授業でのミラリスピーカーの活用</p> <p>行事等： インカムヘッドセットを活用した放課後等ディサービス車両の誘導</p> <p>P T A： 蛍光灯カバー、ガラス飛散防止シート設置作業</p> <p>非常時 (感染症対策)： 日々の職員集会や職員会議、各種研修でのミラリスピーカーの活用</p> <p>→ 実践交流会、研究紀要でのポスター発表および、NPO 法人さくらネット事務局『ぼうさい甲子園 2020』への応募</p>	
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p><u>成果の検証方法</u></p> <p>【教職員】 学校教育自己診断における防災意識に関する設問の評点推移を考察する。 (1年め：評点 72.4)</p> <p>【保護者】 学校教育自己診断における防災に関する設問の評点推移を考察する。 (1年め：評点 90.1、86)</p> <p>【対象生徒】 学校生活アンケートにおける防災に関する設問の評点推移を考察する。 (1年め：評点 84.4)</p> <p><u>評価指標</u> 教職員・保護者、対象生徒の肯定的評価が 70%を超える。</p>	
<p>自己評価</p>	<p><u>学校教育自己診断 (2年め評価)</u></p> <p>【教職員】 わたしは、学校防災に対しての意識が高まっている。評点 74.5…… (○)</p> <p>【保護者】 学校は、防災や防犯など非常時に対する取り組みを適切に行っている。 (設問文を調整した) 評点 86.6…… (◎)</p> <p>【対象生徒】 先生は、地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいか教えてください。 評点 84.2…… (◎)</p> <p><u>結果・考察</u></p> <p>学校教育自己診断および、学校生活アンケートでの防災に関する設問での評点において、目標指標として設定していた肯定的評価 70%以上を全ての設問において達成することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応に関連した日常生活の変化が、『備蓄品を日々の生活で活用する』という本事業全体の主題や、物品の「活用」を主軸とした2年めの展開とも重なり、多くの場面で物品を活用することができた。</p> <p>また、『ぼうさい甲子園 2020』にも応募し、『チャレンジ賞』を受賞するなど、3年めの展開を想定した取組みも進めることができた。</p>	
<p>次年度に向けて</p>	<p>次年度は、新型コロナウイルス感染症対策に係って中止となり、今年度に展開することが叶わなかった PTA 活動 (サマーイベントでの備蓄品体験コーナー設置や PTA バザー) での物品活用を新しい生活様式に準じながら実現することが、3年めの主題となる物品の「汎用」、</p>	

地域との繋がり、渉外・広報活動となる重要な取り組みになると考えている。蛍光灯カバーやガラス飛散防止シートの設置も、教職員とPTAが協働し、継続して作業を続けていきたい。購入物品をより日常的に、様々な場面で活用できるようPTメンバーを中心に実践例を周知し、児童生徒、教職員それぞれが防災の意識を高めることができるまとめの年にしていきたい。また、次年度にも『ぼうさい甲子園』が開催される場合には、本校の取組みを発信する機会にしたいと考えている。